

バスケットボールにおける東北1部リーグとM大学の 各オフェンス戦術のデータ比較

石森永遠（宮城教育大学）

1. 目的

本研究の目的は、東北リーグにおける効率よく得点を積み重ねることのできる有効な戦術を検証する。

2. 研究方法

1) 研究対象

東北リーグ所属6チームとM大学の計7チーム
2022～2024年度の公式戦142試合

2) 調査方法

配信されている試合の映像を視聴し、分析

3) 分析方法

Bリーグの公式スタッツマニュアルを元に分析
項目を選定し、Excelシートに集計

4) エリア区分

内山（2004）、坂井（2021）を参考に以下の図のように区分した。

A～G（3Pエリア）

H～L（Peri）

M～P（制限区域、
斜線部）

O, P（ゴール下、
塗りつぶし部）

Q（バックコート）

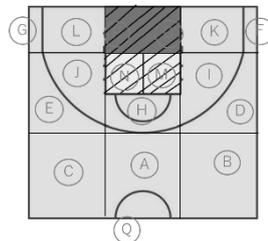


図1 エリア区分

5) ショットコンテスト (SC)

ショットコンテストはシュート時におけるシューターとディフェンスの身体的距離である。八板ら（2017）を参考に以下5種類に区分した。

ノーマーク (N)：ディフェンスがいない

ワンアームアウェイ (OA)：距離が腕1本分よりも遠い

ワンアーム (O)：距離が腕1本分離れている

ハーフアーム (H)：身体接触はないが、腕1本分よりも近いもの

コンタクト (C)：身体接触があったもの

3. 結果と考察

1) シュート%について

勝率の高いチームが成功率で最も高い数値を示し

たが平均試投数で高い数値を示さなかったこと、成功率の最も低いチームが平均試投数で高い数値を示したことから、東北リーグにおいてはシュートの正確性を上げてから試投を増やす方が良いと考える。

2) エリア毎の成功率について

ゴールとの距離が遠くなるほど成功率が低下したことから、いかにゴール下付近に入り込んでシュートを打つかが重要であると考ええる。

3) 戦術とエリアの関係について

早い展開で攻撃した場合にゴール下エリアで最も多くシュートを打てたことから、人数比に関係なく早い攻撃を用いると良いと考える。

4) SC 毎の成功率について

Nの際に最も高い成功率、OやOAの際に最も低い成功率を示したことから、シュート時におけるディフェンスの手が視界の中に入るかが重要である。

5) 戦術とSCの関係について

セットでは意図的な人やボールの動き、早い展開では守備の混乱などによるズレを作り、Nを生み出せると考える。

4. 結論

本研究では、東北リーグにおける有効な攻撃戦術を検証することを目的として分析を行い、以下のことが明らかになった。

ゴール下エリアやNでシュートを打つにはまず早い展開で攻撃を仕掛けることが重要である。シュートまでいけない場合にはバリエーション豊富なセットオフェンスを活用することが必要になる。

他の地域ではピックを多く使用するが、今回の東北リーグでは試行回数が少ないという違いが見られたが有効性の報告はあるため、活用法を知り、練習を重ねることで効果的に使えると考える。

5. 主な参考文献

坂井俊介. バスケットボール競技のセットオフェンスにおけるボールの位置とディフェンスの収縮との関係性. 流通経済大学学位論文：1-5. 2021